

献 辞

小島専孝先生は、2019年2月4日に満65歳の誕生日を迎えられ、2019年3月末日をもって本学を退職されることになりました。

小島先生は、1977年3月に京都大学経済学部を卒業、1982年3月に京都大学大学院経済学研究科博士後期課程を修了（研究指導認定退学）、同年4月京都学園大学経済学部講師、1986年同学部助教教授となられた後、1989年10月本学経済学部助教教授に着任、1997年5月同教授に昇任されました。

小島先生は経済理論講座の教員として、平成とはほぼ同じ期間、本研究科・学部の教育・研究に尽力されてきました。

学部では当初は「経済原論」、その後組織改編により、「ミクロ経済学」、大学院では「現代経済理論形成史」、「中級ミクロ経済学」などの科目を担当されました。また、農学部、経営管理大学院、公共政策大学院においてミクロ経済学科目を担当されました。

小島先生は主として経済学説史研究において注目される研究業績を残されてきました。先生の学説史研究の最初の著作はスラッフアのハイエク批判論文を明確に読み解き、ケインズ『一般理論』の成立との関連を論じたもので、先生の研究の中では最も知られている研究です。その後、ラルフ・ホートリー、ラヴィントンの景気理論を経て、ケインズ『一般理論』以後ほとんど注目されなくなったA. C. ピグーの雇用・景気理論の研究に取り組みました。『経済論叢』創刊100周年記念号では、ピグーはケインズのマクロ理論と双対関係にあるマクロ経済モデルを構築したと論じられています。

小島先生は、研究者の研究発表の場としての大学紀要の比重が低下する中、『経済論叢』に多くの論文を投稿され、他の先生とともに『経済論叢』の定期発行に尽力されました。京都大学経済学会は感謝の気持ちを込めて『経済論叢』の本号を記念号として編集いたしました。先生とゆかりのある方々から寄せられた論文を編んで、本号を先生にお贈りできますことは、私どもの喜びであります。

先生が今後ともますます健康で、学界のため、社会のため、ご活躍なさいますことを心からお祈りいたします。

2019年2月1日

京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長 江上 雅彦